

日本工業大学大学院（専門職大学院） 技術経営研究科 技術経営専攻



、大学院の目的、教育しようとする人材像

日本の経済を支える中核的存在である技術系中堅・中小企業の枢要なスタッフである、実社会での充実した実務経験を持ち、従って問題意識の高い社会人を教育し、更に高度な専門職業人を育成することを目的とする。

、大学院の特色(その1 履修指導の特徴)

1. MOT分野における現役のエキスパートなど優秀な実務家教員(全教員の7割以上)の配備
2. 実例やケーススタディの豊富な採用
3. 魅力的なゲストスピーカーによる講義
4. 実社会の実務家達との交流

大学院の特色(その2)

1. 就学者が全員多忙な社会人である事に配慮して、学期を春、夏、秋、冬の4クォーター制とし、集中的かつ効率的に学習させることで、1年間で修士号を取得可能とした。
2. 就学者が会社での勤務を続けながら、通学可能とするため、平日6時30分から9時40分までの2コマの授業、土曜日は9時から午後6時までの5コマの授業形態を採用した。
3. 就学者の通学の便をはかるために、都心の交通至便な地下鉄神保町駅から徒歩2分の快適アクセス地にキャンパスを設置した。
4. 中堅・中小企業の社会人に実務上即役立つよう、中小企業技術経営、プロジェクトマネジメント、技術起業戦略の3つのコースを設けた。

カリキュラム

各コース共通の「共通基礎科目」(9科目)、各コースの専門科目である「主幹科目」(各コース7科目)と「発展科目」(16科目)、特別科目(2科目)および必修科目の「特定課題研究」(2科目) いずれも各2単位 からなっている。

修了要件

34単位以上の修得ならびに最終試験合格を以って、技術経営修士(専門職)の学位を授与する。

その他

1. 入学者選考:書類審査と面接試験(AO方式)で行う。入試は12月2日(土)、07年2月3日(土)、3月4日(日)の3回を予定。詳しくは <http://www.nit.ac.jp/senmon/>
2. 学費:170万円(入学金+授業料)
3. 奨学金制度:銀行ローン斡旋制度あり(10年分割払い)

MOT大学院を開始しての効果・課題 (その1)

1. 入学者像(H18年度は定員30名に対して36名入学)

全員が実務経験者(新卒者はゼロ)、年齢的には、最年長71歳、最年少25歳、平均37歳、女性4名、社長6名、いわゆる会社派遣14名
コース内訳: 中小企業技術経営21名、プロジェクトマネジメント11名、技術起業戦略4名

2. 入学者のカリキュラム等への期待

学んだことをすぐにでも現在の自分の業務に生かしたいとの反応が濃厚。その意味では学生の満足度はまずまずと評価される。
社長の場合には、今まで我流で経営してきたので、この際MOT分野を体系的に学んでみたかったという感想が多く聞かれた。

MOT大学院を開始しての効果・課題（その2）

1年制だから来る気になったという意見が圧倒的に多かった。これは、(大企業にくらべて余裕の少ない)中堅・中小企業をターゲットにした当初の狙いを満足させるのに必須の条件であったと評価される。
課題として、1年制なので、カリキュラムが込み合っており、必ずしも学生が望む科目を全て履修できない、あるいは授業の進行速度が速くなってしまふなどの傾向も認められた。

3. 実践的能力賦与のための講義方法

科目によっては通常の座学形式の授業でも学生の満足が得られるが、その場合であっても、ケーススタディ的な講義内容が喜ばれる事がわかった。
一般的にいて、学生は教師の側からの一方的な講義は望まず、発言して、授業にコミットする事を望む。従って、学生を幾つかのグループに分けて、ディスカッションをさせる授業形式が好まれる。
ゲストスピーカーによる授業は概して質問も多く寄せられ、有効な授業形態と思われる。

MOT大学院を開始しての効果・課題（その3）

4. 全体的な課題その他

教員側から見ると、年齢もバックグラウンドもさまざまな学生のどのあたりに照準を当てて講義をすれば良いか戸惑うとの声も寄せられている。

1年制の宿命として特定課題研究(プロジェクト研究)に割ける時間が6ヶ月と少なく、院生全員が実務経験を(原則5年以上)持っており、極めて問題意識は高いが、如何に短期間で質の高い特定課題研究レポートを仕上げるかは、これからの重要な課題と認識している。